

北陸新幹線金沢開業前後の取組み

<開業前からの取組み例>

おもてなしの向上

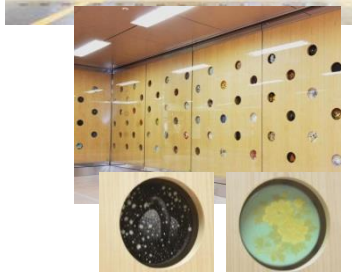
○新幹線金沢駅舎及び金沢駅コンコースへの伝統的工芸品の活用

駅に降り立った瞬間から石川らしい雰囲気を感じ取ってもらえるよう、金沢駅舎及びコンコースに、「本物」の伝統工芸品をふんだんに活用したしつらえを整備。



○金沢駅観光案内所リニューアルオープン

当日宿泊予約、手荷物配送等の新たなサービスの開始等、観光情報センター機能を大幅に強化。



○おもてなし推進大会の開催

「おもてなし」向上に向けた意識の共有を図るため、「おもてなし推進大会」を開催。H23～H26 計7回。



○民間団体によるおもてなしの取組みの展開

各観光ボランティアガイド、加賀友禅大使、金沢ホテル懇話会等、民間団体による誘客PRやお出迎え等の取組みの展開。

食文化の魅力向上

○県産食材等のブランド化の推進

ルビーロマン、エアリーフローラ、能登牛をはじめとする本県の特色ある農林水産物のブランド化を推進。



○いしかわ百万石マルシェの開催

県内の生産者等が首都圏の観光業者や飲食業者、食品・流通業者らに、県産食材を使った試食料理を振る舞いPR。



○地域ならではの「食」ブランドの創出

「能登丼」、「白山百膳」、「加賀パフェ」等、県内各地で地域の特色を活かした「食」ブランド創出・定着に向けた取組を展開。

歴史・景観を活かした地域づくり

○金沢城公園の復元整備

県都金沢のシンボル公園として、史実を尊重し、本物志向で整備を推進。橋爪門二の門の復元(H27.3)、玉泉院丸庭園の再現(H27.3)、鶴の丸休憩館を整備(H29.4)。



○世界農業遺産「能登の里山里海」等の魅力を活かした地域づくり

地域資源を活用した生業創出や、里山里海地域の振興、スローツーリズムの推進等の取組みを展開。

○いしかわ景観総合条例の制定(H21.1施行)による美しい景観の保全・創出



石川の魅力ある里山里海の景観や歴史的な街並み、田園風景など、多彩な景観資源の保全・創出を推進。

- ・白山及び七尾湾の眺望景観の保全
- ・能登の里山里海景観の保全再生 等

<その他の取組み例>

○交流基盤の整備

- ・のと里山海道の無料化(H25.3～)
- ・能越自動車道七尾氷見道路が全線開通(H27.2～)
- ・白山白川郷ホワイトロード通行料金の半額引下げ(H27.6～)
- ・観光列車「のと里山里海号」、「花嫁のれん」の運行



○アンテナショップ「いしかわ百万石物語・江戸本店」を活用したPR

北陸新幹線金沢開業に向けた首都圏の「総合的なPR 拠点」として、東京・銀座2丁目の外堀通り沿いにアンテナショップ「いしかわ百万石物語・江戸本店」をオープン(H26.10)。

○北陸新幹線開業PRマスコットキャラクター「ひやくまんさん」の作成(H25.10)

北陸新幹線開業PRキャッチコピー「いしかわ百万石物語」を象徴するキャラクターとして作成。



<開業後からの取組み例>

○JRとタイアップした通年誘客キャンペーンの展開

例年、北陸三県とJR等が連携して冬季に実施してきた誘客キャンペーンに、春から秋の新たなキャンペーンを加え、年間を通じた誘客活動を展開。



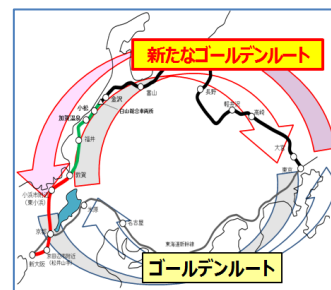
○観光素材・商品の旅行商品化の支援

市町や観光団体自らが発掘・磨き上げてきた観光素材を、大手旅行会社の商品造成担当者の目を通じて、さらに磨き上げ、魅力的な旅行商品づくりにつなげることを目的に、いしかわ旅行商品プロモーション会議を開催。



○JR等の周遊パス(北陸アーチパス)を活用した新たなゴールデンルートの構築

外国人旅行者が東京と大阪・京都間を移動するに際して、北陸新幹線を利用して北陸の観光地を立ち寄る新たなゴールデンルートを定着させるため、北陸新幹線沿線自治体と連携して国際旅行博への出展やメディア招へいを実施。



○金沢港の機能強化整備

クルーズ船の寄港増加に対応し、クルーズ拠点にふさわしい港とすべく、金沢港クルーズターミナルをはじめ、50メートル道路から直接港内へ進入できるアクセス道路や駐車場、緑地の整備を2019年度までの完成を目指して実施。



○東京国立近代美術館工芸館の移転整備

日本海側初の国立美術館として、兼六園そばの文化ゾーンに、東京オリンピック・パラリンピック開催期間中の開館を目指して整備を推進。

